理解されにくい子どもたち
～軽度発達障害の特性と支援～

問い合わせ　生活環境部総務課人権推進担当　☎38(2055)

子どもは、大人と同様に基本的人権が保障されています。しかし、子どもは、大人以上に人権を侵害されやすく、社会的に保護し、守らなければならない存在です。

今回は、神戸YMCA(西宮ブランチ)サポートプログラム講師の新田展子氏から軽度発達障害の特性と支援について寄稿していただき、誤解や偏見を受けやすい軽度発達障害への理解を深め、支援へとつなぎ、共に生きていくことを考えてみたいと思います。

芦屋市・人権シンボルマーク

《プロフィール》
新田　展子(にった　のぶこ)氏
神戸YMCA（西宮ブランチ）サポートプログラム講師。
サポートプログラムに通う幼児～高校生(軽度発達障害があると疑われる子どもたち）を指導し、「親子クラス」「ことば」「SST（ソーシャルスキル）」「高校国語ゼミ」の少人数クラスを担当されている。

理解されにくい子どもたちとは

「ちょっと変わっている。普通そうに見えるのにみんなと行動が少し違う。どんな行動にでるのか読めない」などと言われる子どもたちの中に、軽度発達障害のある子がいます。

周囲の子どもたちと違う部分が多いのですが、だからといってそういった部分が〝いつも〟でも〝すべて〟でもありません。もちろん悪い子ではないし、個人的に伝えれば分かるのに集団内で行う指示や注意が入っていかない、やったらできそうに見えるのに、わざとしないのではと思えることさえあります。

周りの大人にはできない理由が分からないので、ついつい「どうして、できないの！」「いいかげんにしなさい！」「ちゃんとやりなさい！」と叱ってしまいます。子どもが一般的な行動をとれないと、周囲からは「しつけ不足よね」「愛情不足じゃない？」「先生の教育力が…」といった心ない、第三者的な言葉が聞こえてくることもあります。そうなると、責任感が強い人ほど子どもの行動を自分の責任だと感じて、ますますきつく叱ってしまうことになりかねません。

言われたことができないのには理由があります。よく叱られる行動をとってしまう子どもには、食事や睡眠のリズム・家庭の事情や友達とのトラブルなど子ども自身が心理的に落ち着けない状況がある場合もあります。ので一概にはいえませんが、叱られる原因が〝情報の取り入れ方・処理の仕方が違う〟ためということもあるのです。それを理解されずに人の三倍叱られ、できないことで自尊心が傷つくなど、〝見えにくい障がい〟であるがゆえの負担は、けっして軽くないといえます。

見えにくい障がいへの理解に向けて

〝軽度発達障害〟という診断名はありません。この用語は、行動の問題が目立つことの多い「注意欠陥／多動性障害（ＡＤ／ＨＤ）」、社会性や対人関係での問題が大きい「高機能広汎性発達障害（ＨＦＰＤＤ）」、主に認知の違いから学習につまずきが出る「学習障害（ＬＤ）」などの傾向を持つ子どもたちの総称として使われています。しかし、実際の困難さは少しも〝軽度〟ではありません。

『注意欠陥／多動性障害』がある子の行動特徴としては、①多動性（状況とは無関係に…そわそわする・しゃべりすぎる・立ち歩く）②衝動性（突然、激しい動きをする・思いつきで行動する・過敏な反応をする）③不注意（ふと気がそれる・物をよくなくす・注意散漫なことが多い）などが挙げられます。

医学的な診断基準があり、二カ所以上（例えば、家と学校の両方）で、相当数の項目に当てはまることが条件になっています。

そういった部分だけでなく、もちろん良い面もたくさんあります。活動的・意欲的・好奇心旺盛・運動神経良好・思いやり・親しみ・ユーモアのセンスがあるといった子どもたちです。社会に出たらひっぱりだこという話もあります。

『高機能広汎性発達障害』もしくは『自閉症スペクトラム（アスペルガー症候群や高機能自閉症を含む）』にあたる子どもの特徴としては、①対人関係の弱さ（視線が合いにくい・表情が理解しにくい・距離の取り方が下手）②言葉の発達の遅れ（使える言葉が少ない・文章の意味が理解しにくい・冗談や比喩などが分かりにくい）③こだわりの強さ（日課や習慣の変更が苦手・興味のあるものに執着しがち）④感覚の取り入れ方の違い（部分的な過敏さや鈍感さがある・自己刺激を見る・偏食がきつい）などが見られます。幼稚園の頃から全国の県庁所在地を知っている・世界中の国旗や首都は暗記済み・歴史や数学が大得意というように、何か一つのことにずば抜けた才能を見せる子どもも多くいます。

『学習障害』があると疑われる子どもたちは、知的な遅れはないのに、覚え方や理解の仕方が違うために、学校では思うように学ぶことができていません。

例えば、耳からの情報が取り入れにくい（部分的な聞き間違えや聞き落としが多い・様々な音が同時に耳に入ってしまい大切な言葉が聞き取れない・一度にたくさんは覚えられない）という場合や、目からの情報が取り入れにくい（読み飛ばしや勝手読みがよくある・目の前にあるものを見つけられない・状況判断がうまくできずにトラブルが増える）などの特徴があります。別の見方として、一つ一つ順番に物事をとらえることが苦手な場合と、反対に全体を一度にとらえることが苦手という場合があります。どちらの場合も、得意な方法で情報が入ってくれば理解できるので、環境次第で困難度が変わります。

一方、理解はできるけれど表出が苦手という場合もあります。読めるのに書けない・質問の意味は分かっても答えられない・楽器の演奏や球技が苦手などの困難さがでてきます。

理解できている部分が認められ、他児と比較されず自分のペースで努力することが認められれば、得意な部分を伸ばし、苦手なところを補う方法を模索することができるのです。

これらの障がいは、合併して現れることも多々あり、成長の過程で診断名が変わる場合もあります。実際には、はっきりと診断されにくい子どもが多いようですが、共通項としては、①原因は中枢神経系の機能障がいとされている（本人の努力不足や親のしつけではない）②幼少期から傾向が見られる③環境次第で子どもの〝困り感〟が減らせる（周囲の理解が不可欠）という点が挙げられます。

『情報の取り入れ方が違う』ということを周囲が意識して関わることで、子どもたちはぐんと生活しやすくなると考えられます。

一緒に生きていくために

〝上手くいかないことには必ず理由があるはず〟と考えてみる姿勢が第一歩です。そうすれば、支援する方法を工夫することができます。基本は、〝違う〟ことを認めた上で、①環境を整える②得意なところを使う③苦手なことは工夫して練習することです。もちろん、苦手だったら何もしなくていいというわけではありません。優先順位を決め、これだけはと思うものから、環境や手順・材料を工夫した上で練習することが大切になります。できるだけ具体的な体験を通して学べるような配慮も必要でしょう。余暇の使い方ともあわせて、ストレスの発散方法をできるだけ小さい頃から一緒に考えていきたいものです。

現在、一般の小・中学校に六％以上の「通常学級に在籍する、特別な教育的支援を必要とする児童生徒」がいると言われています。小中学校では、現在、そうした特別な支援のための準備が行われています。支援には地域社会における理解も欠かせません。障がい名うんぬんではなく、子ども一人ひとりの良い面を認めることが求められています。保護者同士が自然な会話を交わしながらお互いの話を親身に聞き合い、一緒に工夫していこうとするあたたかい環境の中で、子どもたち同士もお互いの良い面を見つけ・人をばかにせず・簡単に「ずるい」と言わない（本当はどうしたいのか言える）子どもに育ってほしいものです。子どもは自分が安定している時ほど、友達の〝困り感〟を共感しやすくなるものです。それぞれの子どもの一親は特にわが子の）良いところ・頑張っているところ・好きなところをしっかりと言葉にして、何度でも伝えていくことが大切です。障がい にするかしないかは、社会次第です。個性によって不利な状態にならないような、すべての人にとって生きていきやすい社会を作ればと思います。

女と男の参画メール

問い合わせ　女性センター　☎38-2023

～男性の育休取得と企業の両立支援～

厚生労働省のまとめた平成十七年度女性雇用管理基本調査によると、女性の育児休業取得率は七十二・三％で前年度に比べ若干増え、男性は〇・五％でほぼ横ばいでした。国は「子ども・子育て応援プラン」の中で、平成二十一年度までに男性の育児休業取得率を十％にという目標を掲げていますが、現状はほど遠いといった感じです。最近新聞等で、企業の育児支援に関する記事を頻繁に目にします。単なる労働力の確保ではなく、子育てや両立支援に配慮し働き方について社員の多様なニーズに応えたほうが、よりよい人材確保につながり、社員・企業双方にプラスであるという企業の姿勢が見受けられます。しかし、男性の育休取得者はどうしたら増えるのでしょうか？

旭化成は「ニュー・パパ・プロジェクト」と称し、男性の育休取得を阻んでいる要因を労使で考える場を設けました。結果「必然性が低い・無給になる・言いづらい」に集約されることがわかり発想の転換につながったとのこと。その後、制度も大幅に改定され、男性の育休取得者は昨年度六十八人、今年度は半年ですでに百人を超えたそうです。このような手法は企業ならではと言えます。克服すべき課題について現場の声を生かしその問題点を明らかにする。当たり前のようですが大切なことです。

制度が充実していても実際に運用できなければ〝絵に描いたもち〟になってしまいます。個人の意識が変わっても、職場の理解や休業中の代替要員の補充など企業や行政が制度を後押しする形でなければ、国の掲げる取得率の目標十％の実現は難しいかもしれません。

女性センターからのお知らせ

問い合わせ　女性センター　☎38-2023/FAX38-2175/josei-ce@city.ashiya.hyogo.jp
（〒659-0092　大原町2-6　ラ・モール芦屋２階）

平成19年１月１日「女性センター」は「男女共同参画センター」へ

愛称は「ウィザスあしや」に決定

来年一月一日に「女性センター」は「男女共同参画センター」に変わります。

名称変更に伴い愛称を募集したところ全部で六十二件の応募があり、このたび選定委員会で「ウィザスあしや」に決定しました。

「ウィザス」は、ウィズ・アス＝with usのことで、共に生きる―男女共生社会〟の理念をあらわしています。採用された東山町の中村厚子さんは「ウィザス・プラン（芦屋市男女共同参画行動計画）の策定に携わった時の思いから、共に生き・考え・行動し、みんなの考えを発信するセンターでありたい、という気持ちを込めました。選ばれて感慨もひとしおです」と喜びを語ってくれました。

女性も男性も生きやすい社会を目指して、また、皆さんの身近な施設となるよう、今後も男女共生のためのセミナーや様々な事業を展開していきますのでよろしくお願いします。

女性センター講座

「家族で語る性教育－思春期編」

心と身体が変化していく思春期。あふれる性情報にさらされる中で、大人としてどんな性教育ができるのか。性のことをどう子どもに伝えたらよいのか。親子で性の問題を考えるきっかけに参加してみませんか。
■日時　12月15日(金)午前10時～正午　■会場　女性センター　■講師　思春期保健相談士・徳永桂子氏
■定員　小・中・高校生の親および性教育に関心のあるかた先着30人　■受講料　300円　■一時保育　先着８人。２歳以上就学前の幼児で1人300円。12月11日(月）までに要予約　■申し込み　はがき・電話・ファクス・Ｅメールで、講座名・住所・氏名・電話(ファクス)番号、一時保育希望者は子どもの名前・生年月日を女性センターへ

市民企画事業

冬休み企画　『小学生集れ！体験型ロールプレイングゲームで人の気持ちを知ろう！』

コミュニケーションの意図や必要性を感じてもらうプログラム。例えば、勉強しなさいというお母さん、遊びたいと思う子どもの立場になりきって意見を交わします。人が皆違うことに気付き、自分も相手も大切にできるようになることを目的としています。
■日時　12月26日(火)午前10時～11時30分　■会場　女性センター　■講師　マザーズサポーター協会　■定員　小学生先着25人　■一時保育　先着８人（２歳以上就学前の幼児対象。1人300円)12月22日(金)までに要予約。　■申し込み　はがき・電話・ファクス・Ｅメールで、保護者と子どもの氏名・学年・住所・電話(ファクス)番号を女性センターへ

女性センター展示「百歳の笑顔」展

■期間　12月１日～27日(土・日・祝日を除く)午前９時～午後５時
■会場　女性センター
■内容　にっちゃ倶楽部編集「百歳の笑顔」の写真展

女性センター相談日のお知らせ

～専門の相談員が相談に応じます～
【相談予約電話　☎38-2022】
○女性の悩み相談＜要予約＞
日時　毎週金曜日・午後１時～４時
内容　夫婦・家族関係、心の悩みなど
○暴力(ＤＶ)に関する相談＜要予約＞
日時　12月６日(水)午後１時～４時
内容　夫や親しい関係にある男性からの暴力(ＤＶ)

上宮川文化センターの催し

問い合わせ　上宮川文化センター　☎22-9229
（〒659-0061　上宮川町10- 5）

ヒューマンライツシアター『戦場のアリア』

■日時　12月16日(土)午前10時30分～午後０時27分、午後１時30分～午後３時27分
■会場　上宮川文化センター・ホール
■定員　各回・当日先着100人
《物　語》
第一次大戦下、雪のクリスマス・イブにフランス北部の前線各地で起こった出来事。過酷極まりない戦場に10万本のクリスマス・ツリーが届けられ、奇跡は起こった。歴史に置き去りにされた真実の物語。
●監督／クリスチャン・カリオン　●出演／ダイアン・クルーガー、ベンノ・フュルマンほか

パソコン講座

女性パソコン教室　～基礎からワードやエクセルを暮らしに生かす方法まで～
■日時　平成19年１月10日(水)・12日(金)・17日(水)・19日(金)＜全４回＞午前10時～正午　■会場　上宮川文化センターパソコン室　■対象　全日受講できる初心者の女性６人　■受講料　2,000円

シニアパソコン教室　「はじめてのワードとペイント」～絵手紙を作りましょう～
■日時　平成19年１月10日(水)・12日(金)＜全２回＞午後１時～３時　■会場　上宮川文化センターパソコン室　■対象　両日受講できる60歳以上の初心者６人　■受講料　1,000円

シニアパソコン教室　「はじめてのエクセル」～エクセルの基本を学びましょう～
■日時　平成19年１月17日(水)・19日(金)＜全２回＞午後１時～３時　■会場　上宮川文化センターパソコン室　■対象　両日受講できる60歳以上の文字入力のできるかた６人　■受講料　1,000円

■申し込み　はがきに、希望教室名（１教室につき１枚）、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を記入して12月11日(月)<必着>までに上宮川文化センターへ。応募多数者の場合は抽選。結果は受講者へのみ、はがきで連絡します。

平成19年度保育所入所児童の受付開始

問い合わせ　こども課　☎38-2045

来年四月に保育所へ入所希望される乳幼児の申し込みを、左記のとおり受け付けます。
■対象　市内在住で、保護者が就労等のため保育できない家庭の乳幼児(平成十三年四月二日から十八年十二月一日生まれ)　■申し込み　十二月一日～二十日（土・日・祝日を除く執務時間内）に、こども課へ。
＊詳しくは、市ホームページをご覧ください。

テレビ広報番組ガイド

12月

芦屋市広報番組　あしや30サーティーmin.

		放送時間〔30分〕
芦屋市の動き	芦屋市議会 議員定数削減案 否決	① 8:00
芦屋市政キララ	保育所待機児童解消への取り組み	②11:30
トピックス	第１回こどもフェスティバル 第42回菊花展	③16:00 ④19:30
芦屋市からのお知らせ	年末年始のごみ特別収集	⑤22:30
芦屋の中のフランス	フランスの家族のかたち キャティー　シャロン　梶本さん	※ビデオテープ貸出可
ドラマサーティ	「環境にやさしい　大掃除物語」	
市民の時間	市民スタッフ フリマにチャレンジ	

■番組に関する問い合わせ　広報課　☎38-2006　■CATV全般に関する問い合わせ　ケーブルネット神戸芦屋(J：COM)カスタマーズセンター　☎0120-13-8160

芦屋川カレッジ公開講座

「澤田知子の世界　セルフポートレート作品を作ること」
内面と外面のギャップをテーマに、自分自身が「被写体」になる。同じ人物なのに、まるで別人のように見えてしまう！
今、注目の写真作家の世界です。
■日時　12月13日(水)午後１時15分～２時45分　■講師　澤田知子氏(写真家)　■会場　市民センター401室　■受講料　300円　■申し込み　はがきまたはファクスで住所・氏名・電話番号・講座名を公民館へ

School Days
＊41人がすべて同じ人物です

問い合わせ　公民館　☎35-0700/FAX31-4998(〒659-0068　業平町8-24)

第20回芦屋市コミスク合同文化展

市内９コミュニティ・スクール会員の、手芸・工芸・陶芸等の力作を展示します。
■日時　12月８日(金)午後１時～６時／９日(土)午前９時～午後６時・／10日(日)午前９時～午後３時　■会場　市民センター・多目的ホール

問い合わせ　生涯学習課　☎38-2091